ハル、並中に転校？

零崎稲織

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ハル、並中に転校？

【Ｎコード】
Ｎ２３１０Ｄ

【作者名】
零崎稲織

【あらすじ】
ある日、ハルが並中に潜入するというお話です。あらすじを書くほど長くないです。ハイ。

忙しない朝。寝坊した上、リボーンに朝ご飯を奪われてさんざんなツナ。とりあえず何か腹におさめておこうと、焼き上がったばかりの焦げたトースト（ランボたちに気をとられていたママンが焦がしてしまった）をくわえながら玄関を出た。
「ツナさぁ～ん。見てくださいっ。ハルが徹夜で作ったんですよ」
「げっ、ハル。何してんだよ？」
並盛中学校の制服を着たハルが家の前に立っていた。
「つーか、こんなとこにいる場合じゃないだろ？学校に遅れちゃうよ」
「振替で今日はお休みなんです。昨日は土曜日でしたが、参観日がありまして」
「そうなの？って、それ並中の制服でしかも男子用？」
「そうなんです。似合ってますか？」
「いや、やっぱハルは女の子なんだから……」
「ツナさんとお揃いが着てみたかったんです。でもツナさんがそう言うなら……じゃ～んっ！」
並盛中学校の女子用制服が登場した。
「えっ、女子用もあるの？ってこんなことしてる場合じゃないよ。急がないと」
ツナは死ぬ気で走った。途中でハルが、「はひっ、もう走れません」と言ってしゃがみ込んだので、抱きかかえて走る、走る。死ぬ気モードでパンツ一丁になってしまったツナは、ハルお手製の制服（※男子用）を借りることにした。
「ど、どうしよう。ハルを連れて来ちゃったよ」
「とりあえず、潜入します！」
「やる気満々！？」
ツナたちのクラスに欠席者が1人いたため、ハルはその席に座る

ことにした。
「十代目、どうしてハルが並中にいるんすか？」
獄寺が小声でツナに尋ねる。
「えっ、それは」
「ツナが連れて来たんだぞ」
「リボーン、何しに来たんだよ？」
「ボリーンだ」
「どっちだっていいよ！」
ツナの心配をよそに、ハルは京子と仲良く話している。
「ラ・ナミモリーヌに新作が出たんだって。帰りに寄ってみない？」
「知ってます。知ってます。確かラ・ナミモンブランでしたよね？」
「そうそう。あれ、そういえばハルちゃん学校は？」
「よくぞ聞いてくださいました。今日は参観日の振替でお休みなんです。そこで、並中に潜入しようと思いまして」
「そうなんだー。おもしろそうだね」
（あー、京子ちゃんかわいいなぁ）
ドスッ。
京子に見とれているツナの脇腹に、リボーンが蹴りを食らわせた。
「てっ、な、何すんだよ」
「よそ見してんじゃねーぞ。とっくに授業は始まってんだ」
今日の特別講師である天才数学者、ボリーン博士の授業は難しすぎて
誰もついてこられない。と思いきや、「オレ、解けました！答えは２ｘｙ／ａっす」
獄寺が得意げに言った。
「正解だぞ。だけどお前はマフィアだから解けて当たり前だぞ」
「マフィア候補なのに解けてない人いるんですけど……」（ツナ＆山本）
二時間目の授業は、はたまた特別講師、パオパオ老師による体育。

ドッジボールをすることになった。
ほとんどのボールがツナめがけて飛んでくる。
「ひいっ」
（あー早く終わらないかなぁ。オレ明らかに狙われてるし）
「ツナさぁ～ん。ファイトです！」
遠くでハルの声がした。
ハルの隣で京子が微笑んでいる。
（京子ちゃんに見られてるよ……）
「死ぬ気でやれ！」
リボーンはそう言うと、ツナに死ぬ気弾を食らわせた。
「復活（リ・ボーン）！！！」
ツナは死ぬ気モードになった。
「死ぬ気で逃げる！」
そして、ものすごい速さでコートから逃げ出した。
「沢田ぁ、オレと勝負しろ！」
京子の兄である了平がツナを追いかける。
「まだまだだな」
リボーンは帽子を深くかぶり直しながら言った。
それから町内を一周して戻ってきたツナは次の授業に遅れ、リボ山先生にどつかれ、バケツを持って廊下に立たされ……散々な1日だった。
（絶対京子ちゃんに笑われたー）

一方ハルは、リボーンのおかげもあってか、潜入がバレることはなかった。
（つーかハル、普通に馴染んでたなぁ）
「今日はほんとに楽しかったです。毎日ツナさんと同じ教室で授業が受けられる皆さんがうらやましいです。ハル、並中に転校しようかと」
「何言ってんだよ！」

ツナが声を荒げた。
「ツナ？」
山本が顔をしかめる。
「ハル、自分が何のために緑中に入学したのか、もう一度よく考えるんだ」
「ツ、ツナさん？」
「オレたちと一緒にいたいからって理由で並中に転校するのはよくないよ」
ツナは強い口調で、でも悲しそうな顔で言った。
「ハルは……ハルは、軽率でした」
ハルはシュンとなっている。
「急に怒鳴ったりしてごめんね。けどハルには、もちろん他のみんなもだけど、自分の決めた道を進んでほしいんだ。学校は違ってもオレたち、いつでも会えるだろ？」
「はい、ハルは夢に向かって走ります！」
「カッコいいっす、十代目！」
獄寺が目を輝かせて言った。
「よく言ったぞ、ツナ」
山本の肩の上に乗っかっているリボーンが言った。
ハルは緑中に通いながらツナのお嫁さんを目指すことを心に堅く誓ったのであった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2310d/

ハル、並中に転校？

2010年10月28日00時53分発行